

2026年3月期 第3四半期決算・事業戦略レポート

# 収益回復から成長軌道へ： 循環型社会の実現を担う

三和油化工業株式会社

証券コード：4125（東証スタンダード / 名証メイン）

2026年2月



# 決算ハイライト：26/3期3Qは大幅な増収増益を達成

売上高

13,964 百万円

前年同期比 +16.5%

営業利益

958 百万円

前年同期比 +53.3%

経常利益

1,069 百万円

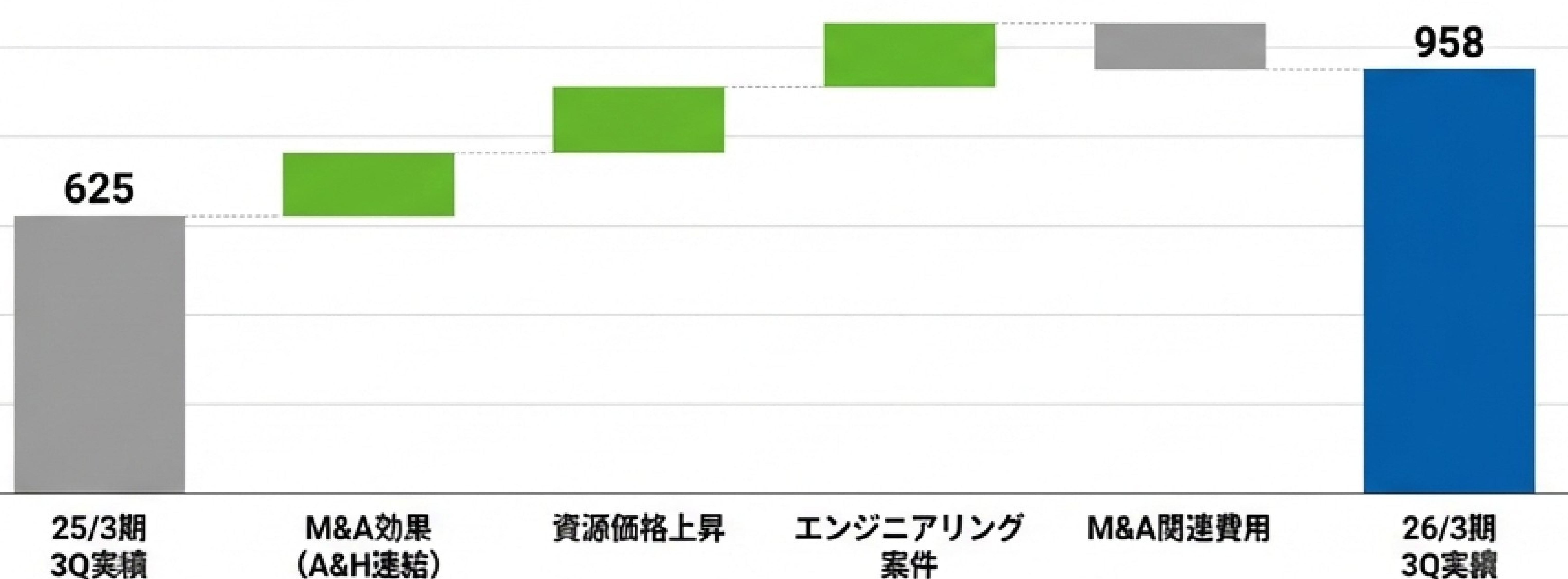
前年同期比 +53.9%

当期純利益

694 百万円

前年同期比 +52.8%

Operating Profit (Millions JPY)

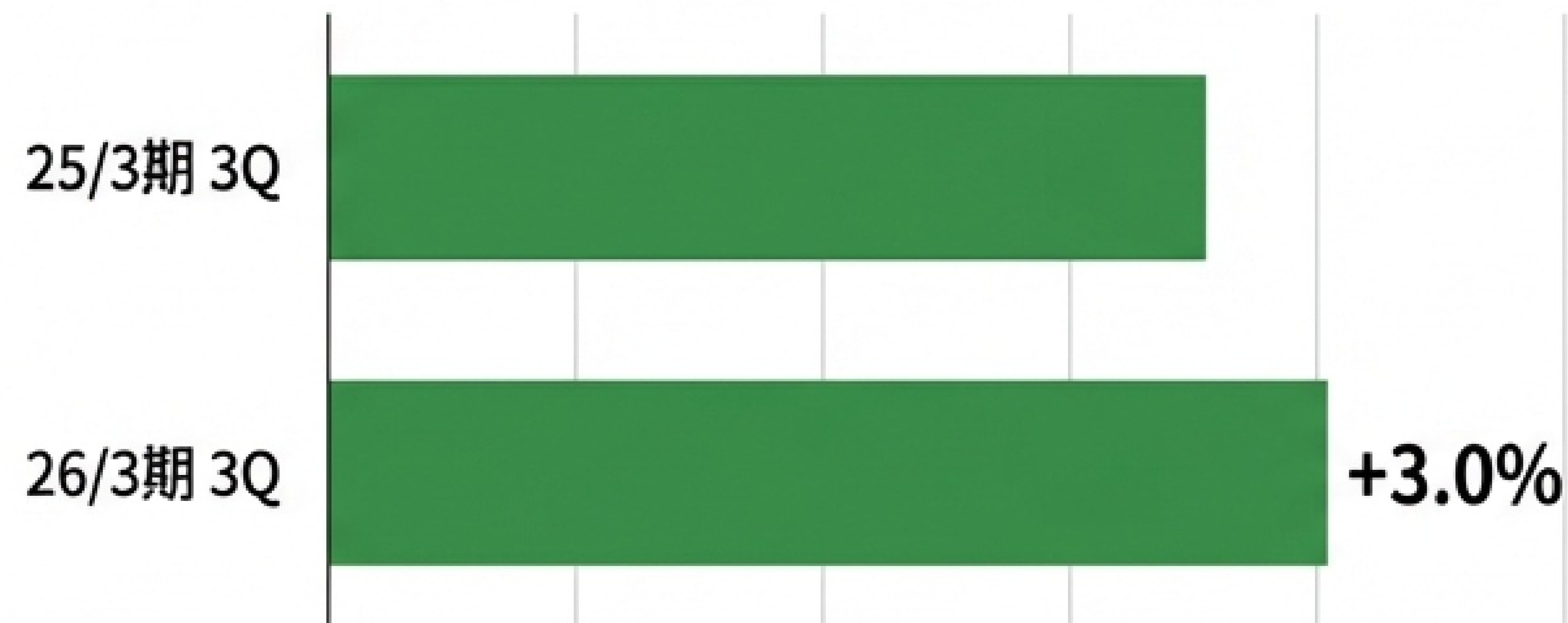


25/3期を底に、  
M&A効果と資源高、  
エンジニアリング需要  
が利益を押し上げ

# セグメント分析①：リユース・リサイクル事業（安定収益基盤）

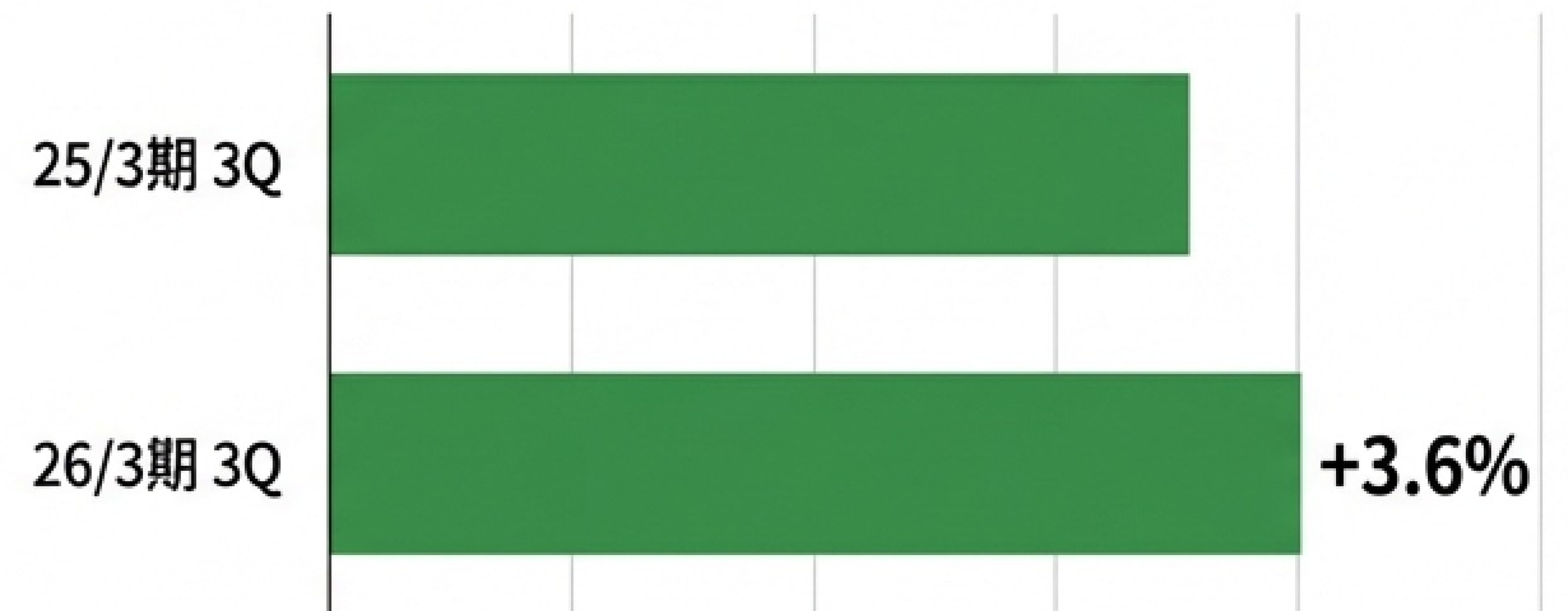
資源循環ニーズと金属相場上昇を背景に堅調な推移

## リユース事業（Reuse）



- 使用済み溶剤、金属回収を含む再資源化事業。
- 金属相場（貴金属・レアメタル）の上昇が寄与し、取扱量が増加。

## リサイクル事業（Recycle）



- 産業廃棄物の焼却・中間処理。
- 廃棄物処理需要は底堅く推移し、安定的な収益源として機能。

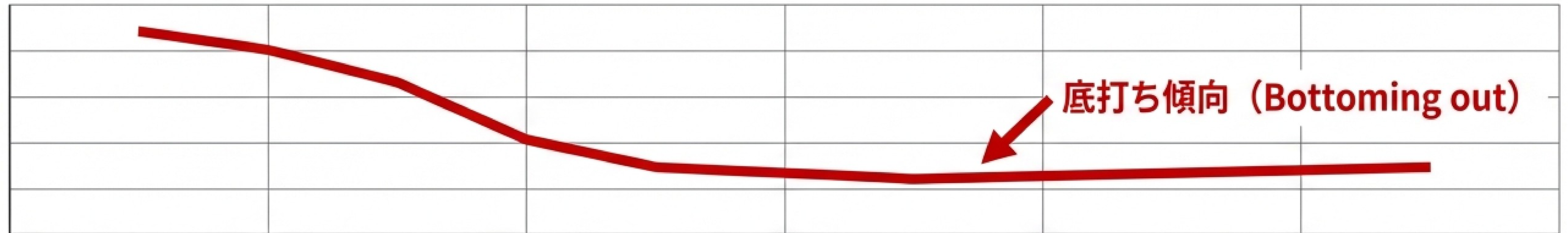
### Insight

当社の主力事業（売上高の約6割）であり、サーキュラーエコノミーへの関心の高まりを受け、着実な成長を継続。

# セグメント分析②：化学品・自動車事業（市況の影響）

半導体・EV市況の調整局面により回復に遅れ、現在は底打ちの兆し

## 化学品事業（Chemicals）



注記: コモディティグレードの半導体向け需要は回復が鈍い。一方で、特定のファインケミカル品へのシフトを進める。

## 自動車事業（Automotive）

**前年同期比 -1.6%**

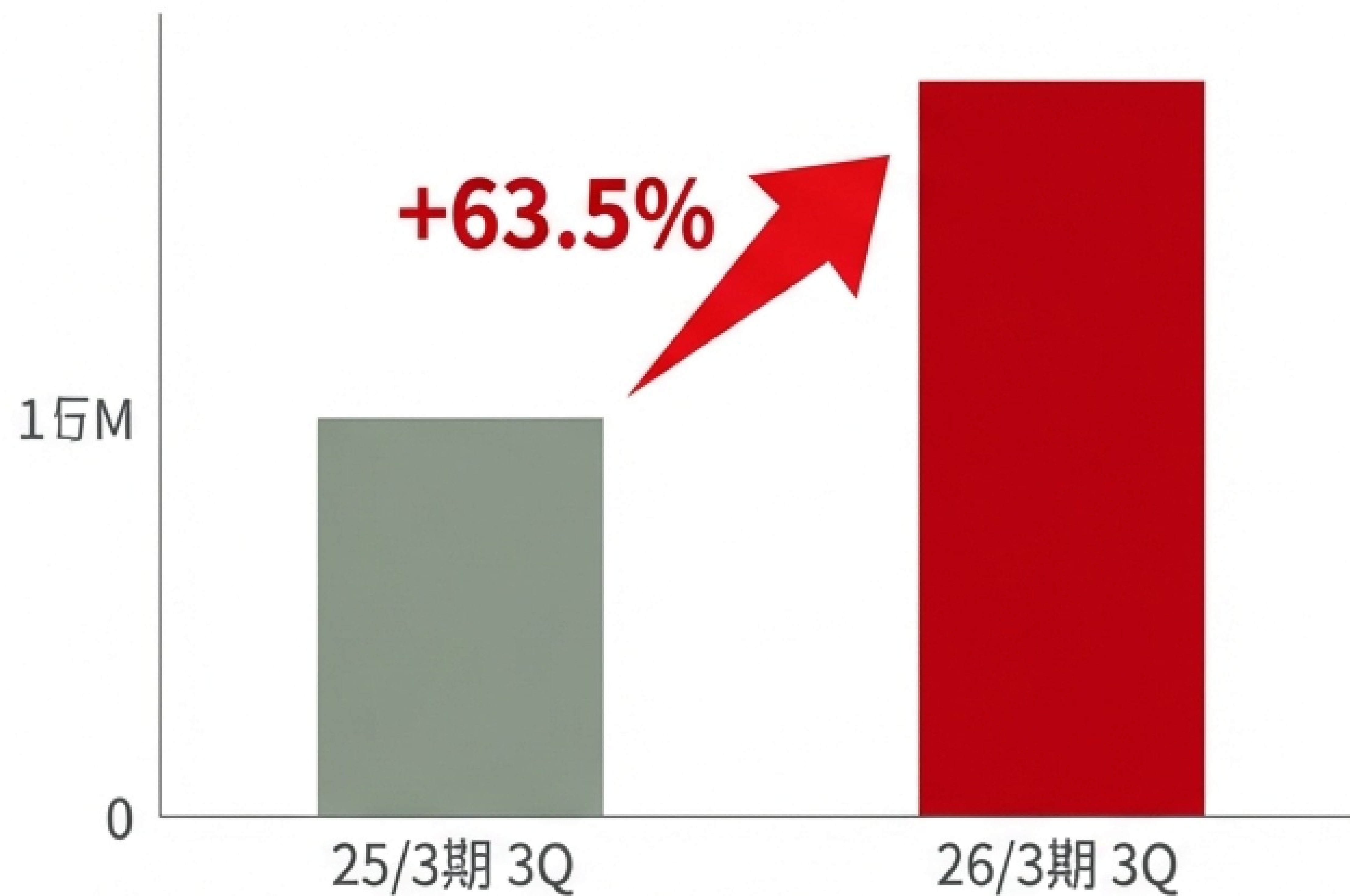
EV（電気自動車）市場の成長鈍化に伴い、関連部材（バインダー等）や製造工程向け副資材の販売が微減。

## 評価（Assessment）

外部環境は厳しいが、在庫調整の一巡と次期以降の市況回復を見据え、シェア維持に注力。  
これ以上のダウンサイドリスクは限定的と判断。

# セグメント分析③：エンジニアリング事業（成長ドライバー）

PCB処理期限に向けた特需とM&A効果で飛躍的伸長（+63.5%）



## Key Drivers（成長要因）

- **PCB処理特需:** 処理期限（来年度中）が迫る中、大型案件の受注・完工が集中。
- **M&A効果:** 2025年10月に子会社化した「エー・アンド・エイチ・ジャパン」による解体・清掃案件の取り込みが開始。

## Insight

戦略的意義: 従来の「付帯サービス」から「主要な収益の柱」へと変貌。単なる工事ではなく、そこから派生する廃棄物処理（リユース・リサイクル）へのクロスセルを生む起点となっている。

## 通期業績予想：売上高200億円・営業利益13億円への上方修正

	前回予想 (Previous)	今回修正予想 (Revised)	増減率 (Change)
売上高 (Sales)	18,700百万円	<b>20,000百万円</b>	+24.7%
営業利益 (Op. Profit)	1,100百万円	<b>1,300百万円</b>	+55.5%

### 達成の確度と要因 (Feasibility Analysis)

#### 高い進捗率

第3四半期時点で営業利益の進捗率は87.1%に達しており、達成確度は極めて高い。

#### 第4四半期の積み上げ

エンジニアリング事業の季節性(期末完工)に加え、新規子会社のフル寄与が見込まれる。

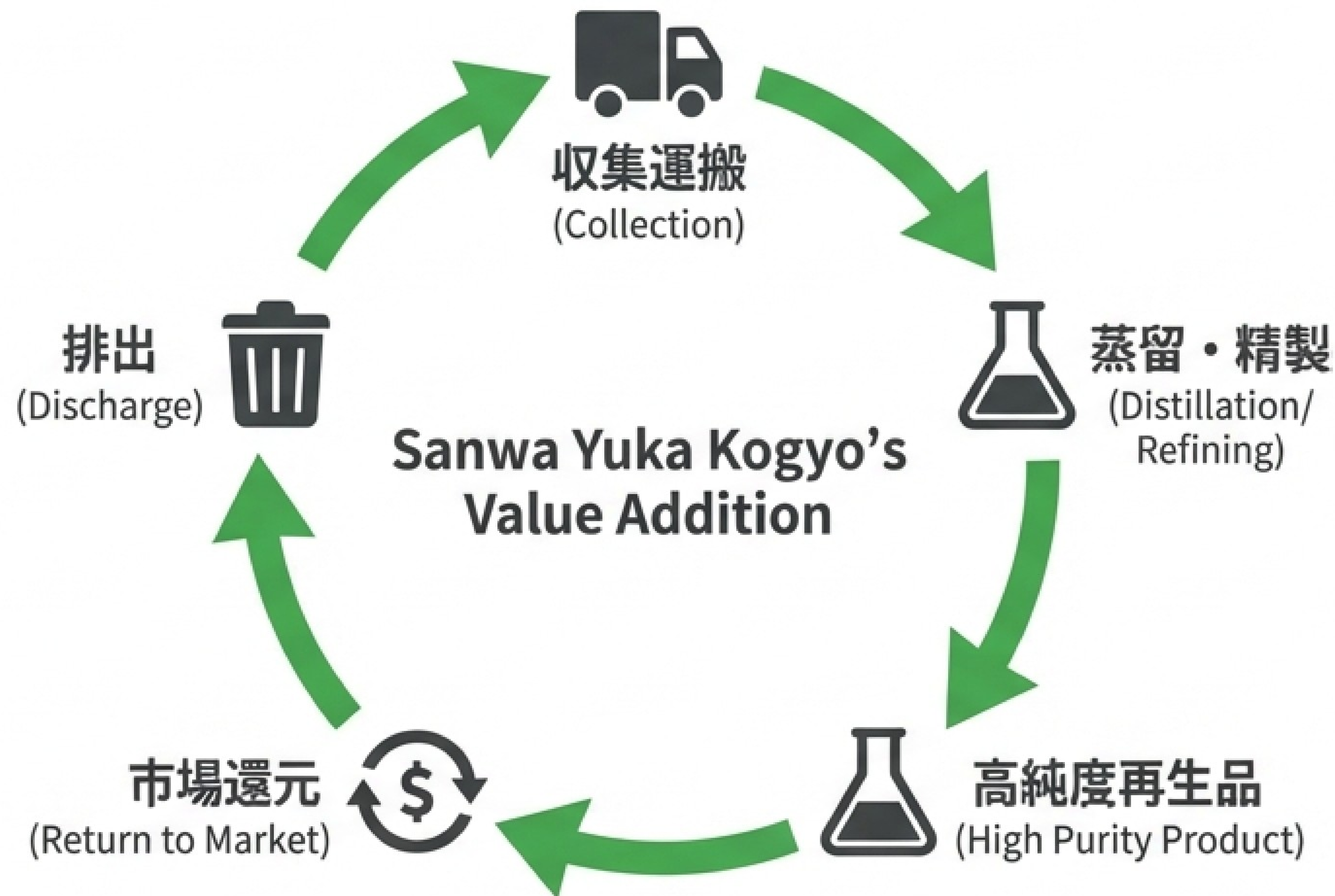
#### リスク織り込み済み

化学品事業の回復遅れは既に織り込み済みであり、下振れリスクは限定的。

**創業以来の高水準な業績達成が視野に入っている。**

# 成長戦略①：リユース・リサイクル事業の高度化

「廃棄物処理」から「資源循環（サーキュラーエコノミー）」へ



## 戦略テーマ: 環境ニーズを創造する

- 単に捨てるものを処理するのではなく、顧客の「資源調達リスク低減」や「CO2削減」に貢献するソリューションを提供。
- 技術的障壁: 難処理廃棄物の分離・精製技術と、長年蓄積した許認可（全国ネットワーク）が他社参入を阻む高い参入障壁となる。

# 競争優位性と有望案件（リユース・リサイクル）

## Key Growth Projects

### 半導体リサイクル (Semiconductor Recycling)



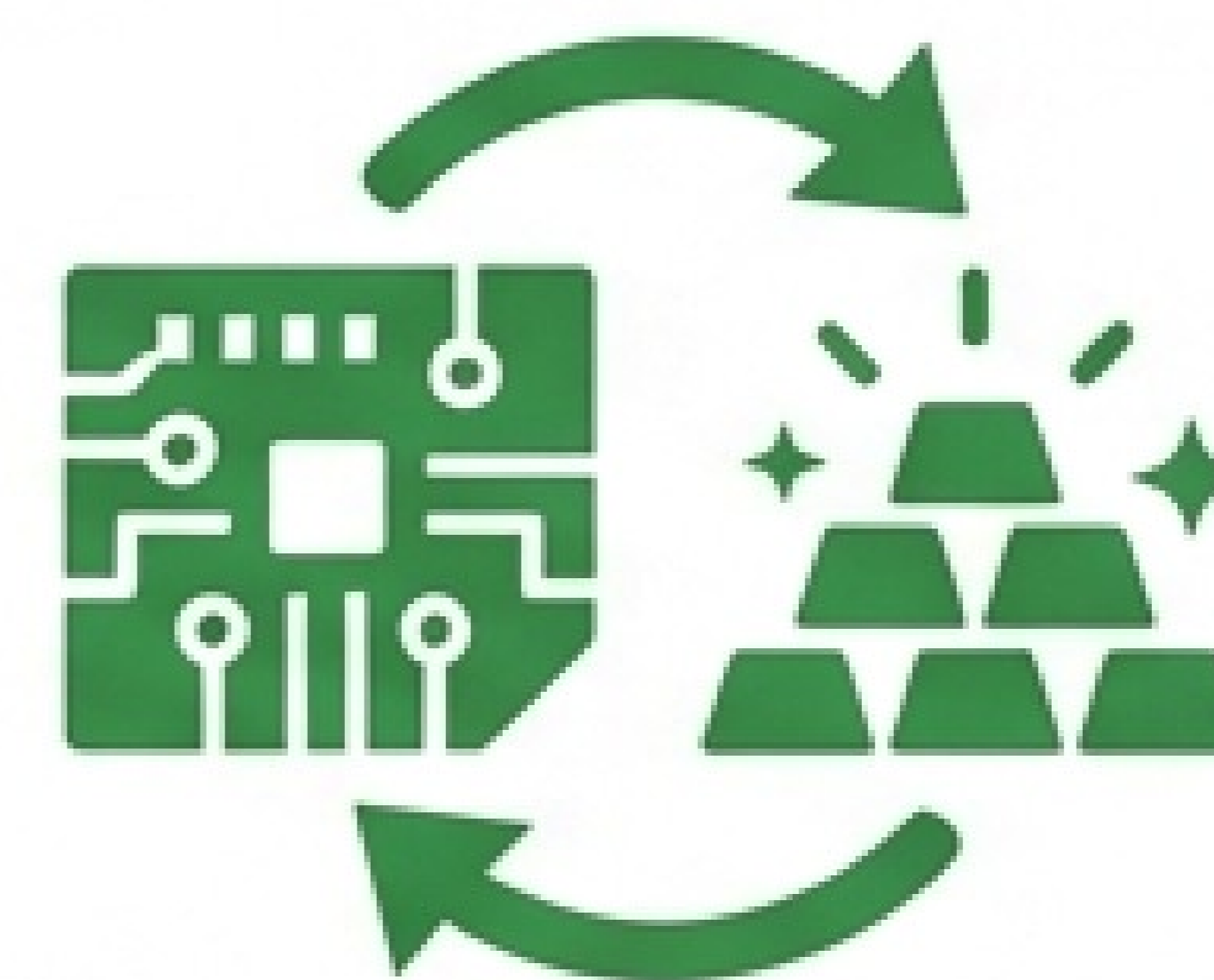
**案件名:** サンワマテリアルソリューションズ株式会社（北九州市）

**概要:** 成長が続く半導体産業から排出される廃液・汚泥をマテリアルリサイクルする新工場を建設中。

**狙い:** 九州シリコンアイランドにおける旺盛な需要を捕捉。

## Key Growth Projects

### 貴金属・レアメタル回収 (Rare Metal Recovery)

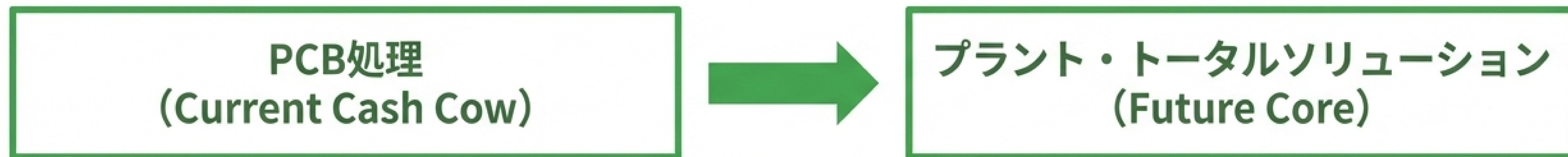


**案件名:** 貴金属・レアメタル回収事業の本格化

**概要:** 子会社化したA&Hジャパンの技術を活用し、従来の有機溶剤だけでなく、都市鉱山（基板・廃電子機器）からの金属回収へ領域を拡大。

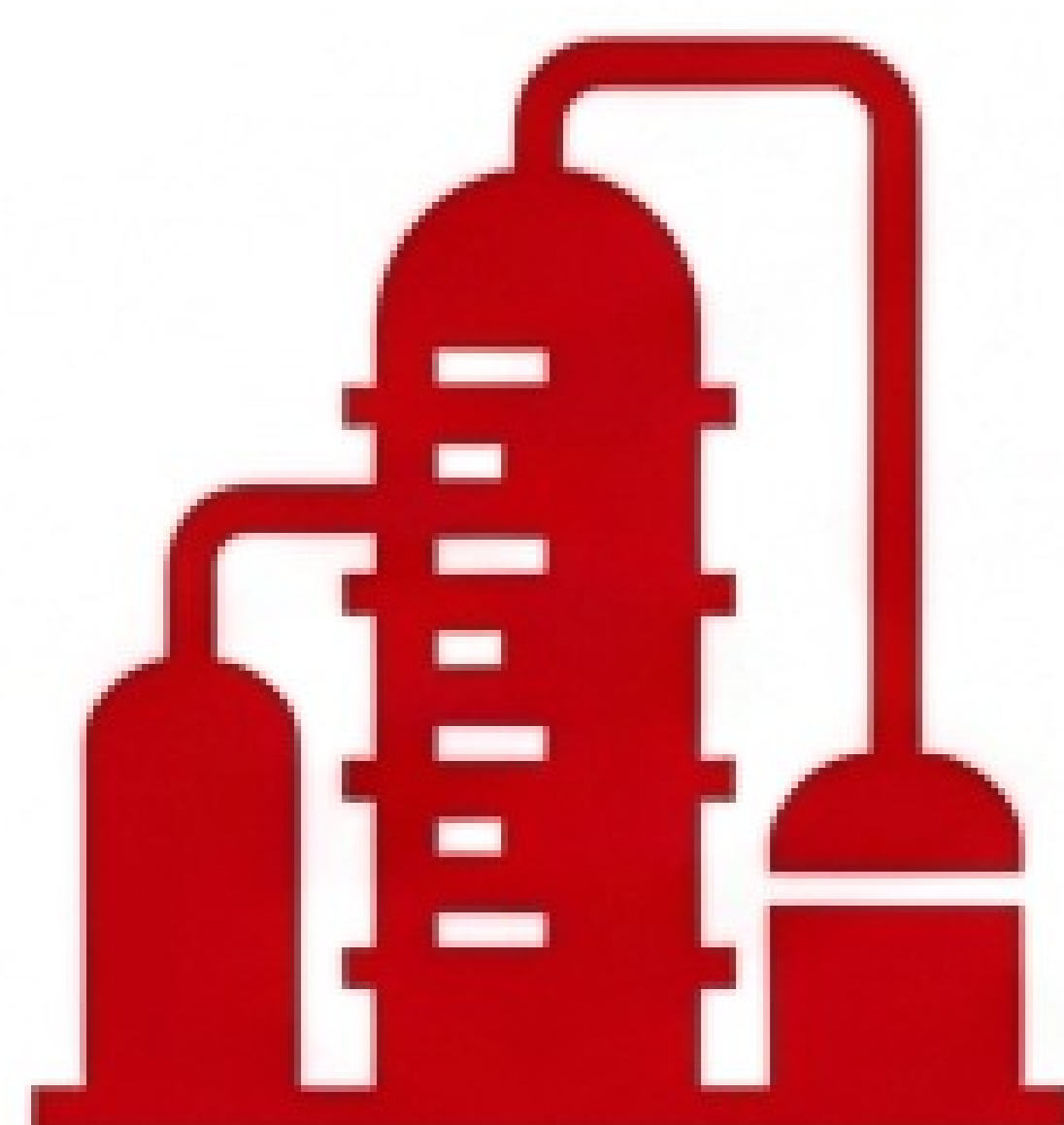
# 成長戦略②：エンジニアリングの多角化と化学品のニッチトップ戦略

## エンジニアリング事業（Engineering Strategy）



「PCB処理」の特需一巡後を見据え、工場の清掃・解体から、そこから出る廃棄物の処理、土壌汚染対策までをワンストップで請け負う体制へ移行。

## 化学品事業（Chemical Strategy）



### ニッチトップ戦略

エチレンプラント統廃合に伴うサプライチェーンの隙間を突く。国内で供給が減少するファインケミカル製品（高純度溶剤等）について、独自の調達ルートと精製技術で安定供給を行う。

# 市場環境と展開：プラント解体需要の取り込み

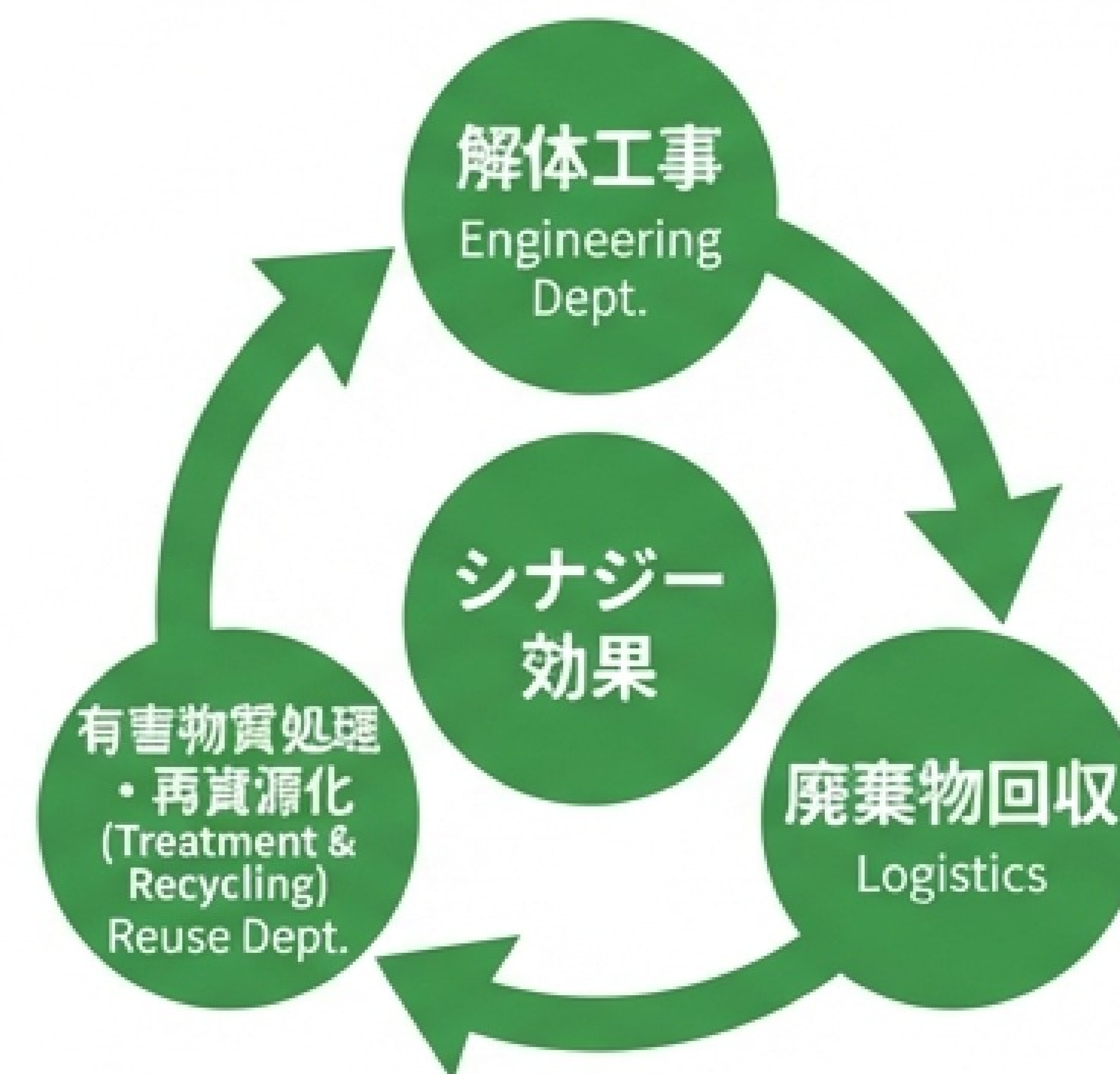
## 市場機会 (Market Opportunity)

日本の高度経済成長期に建設された化学プラントや焼却施設が更新時期を迎えている。老朽化プラントの解体市場は長期的に拡大傾向にある。



## 三和油化工業の優位性 (Our Advantage)

### ワンストップ・ソリューション



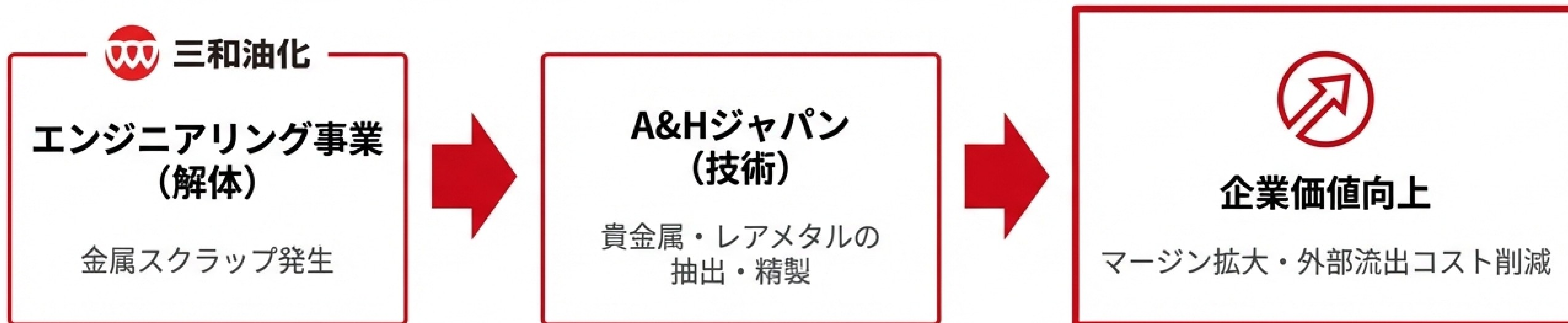
一般的な解体業者にはない「化学物質の適正処理ノウハウ」が差別化要因。解体からリサイクルまで一括受託することで高収益化を実現。

# M&A戦略：A&Hジャパン子会社化によるシナジー創出

## 案件概要 (Acquisition Summary)

対象企業：	エー・アンド・エイチ・ジャパン株式会社
取得日：	2025年10月 (100%取得)
取得価額：	700百万円

## Synergy Map



# 結論：収益拡大期入りで割安感強い (Slightly Positive)

## 業績回復 (Recovery)

25/3期をボトムに、26/3期はV字回復を達成。27/3期以降もM&A効果とエンジニアリングの伸長で収益拡大が确实視される。



## ポートフォリオ変革 (Transformation)

化学品市況に左右されにくい強靱な事業構造（リユース・エンジニアリング）への転換が進展。



## バリュエーション (Valuation)

PERは業界平均を下回り、PBRも1倍割れの水準。現在の株価は成長性を織り込んでおらず、投資妙味は大。

**PBR < 1.0x**

「環境・資源・エネルギー」の国策テーマに乗る成長企業として、再評価の余地あり。